

(参考資料) 鬱陵島と竹島の名称の変遷 (江戸時代 ~ 明治時代)

以下の経緯により、江戸時代、日本では、鬱陵島が「竹島」、現在の竹島が「松島」と呼ばれていたが、明治時代になると鬱陵島が「松島」と呼ばれることが一般的となった。



①江戸時代の日本での呼称 (地図例1)



②18世紀末の英仏船の測量結果

(※) 19世紀前半の欧米地図 (当時、現在の竹島はまだ欧米では未発見) では、鬱陵島が2つ (英国船の測量間違いによるアルゴノート島と本来の鬱陵島の位置のダジュレー島) 描かれ、日本滞在中に日本海に「竹島」「松島」があるという知識を得たシーボルトが、アルゴノート島を「タカシマ」、ダジュレー島 (本来の鬱陵島) を「マツシマ」に比定した。

シーボルトによる①と②の混交 (※)



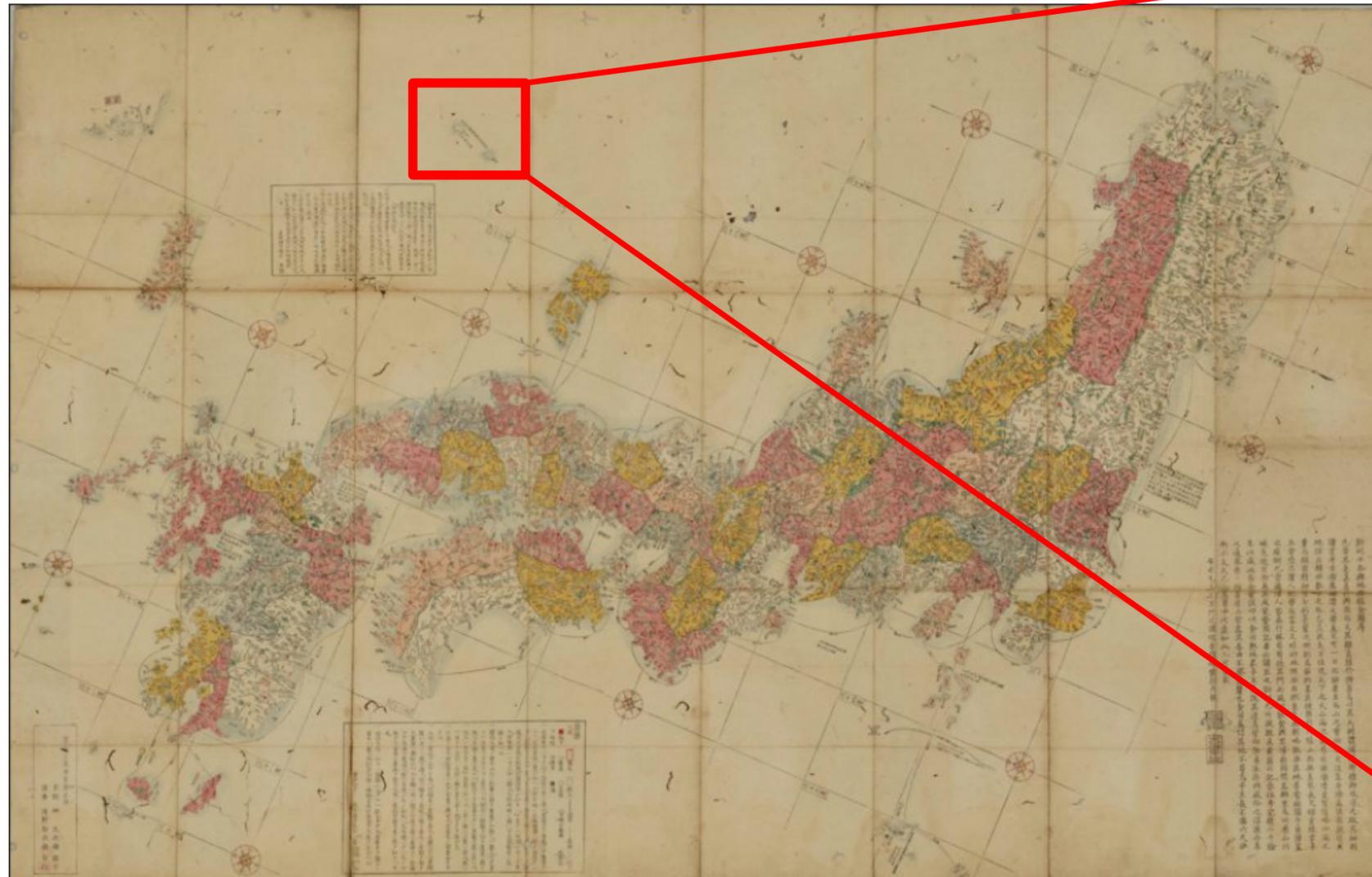
③19世紀後半の欧米で制作された地図 (地図例2)



④明治期の日本で制作された地図 (地図例3)

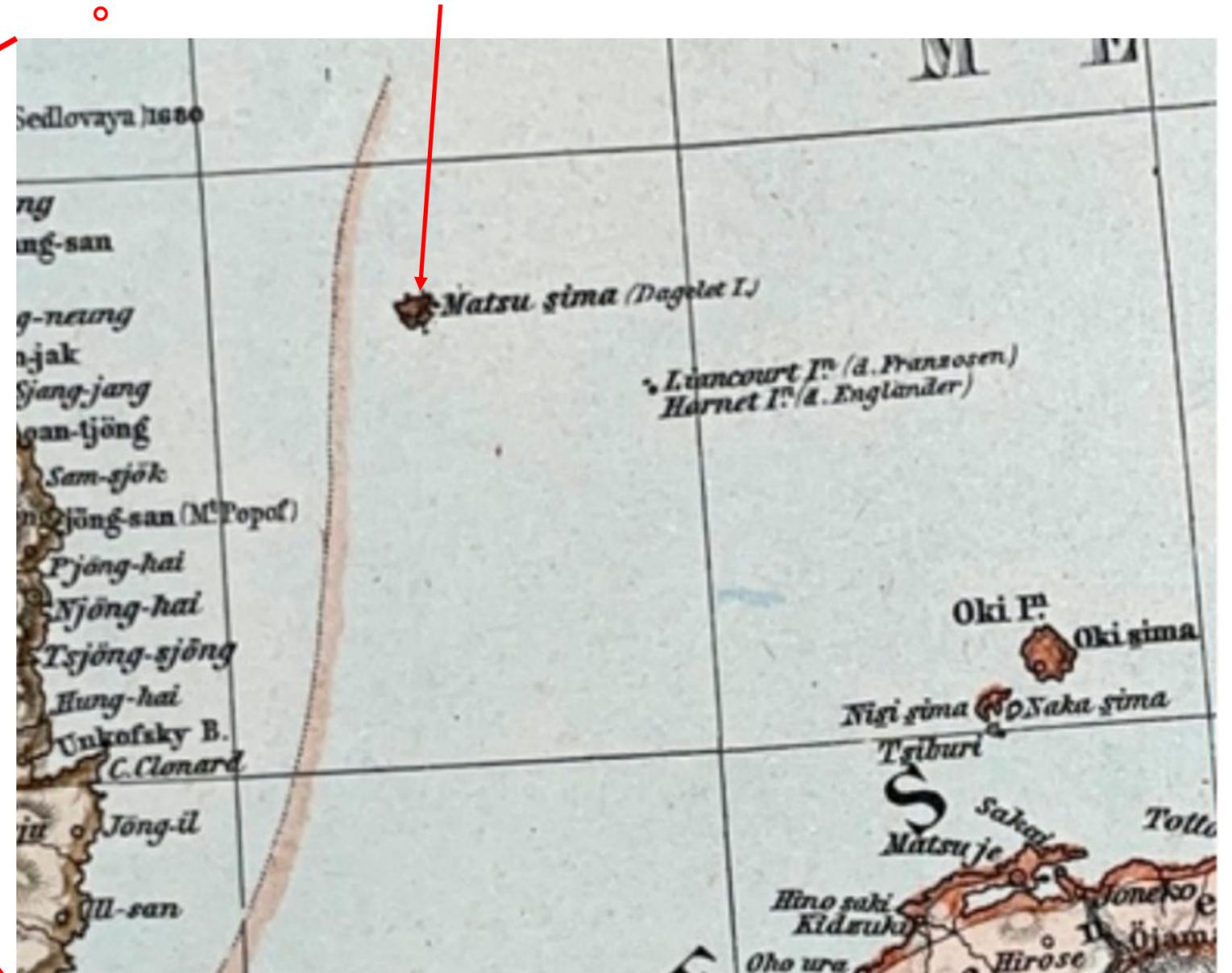
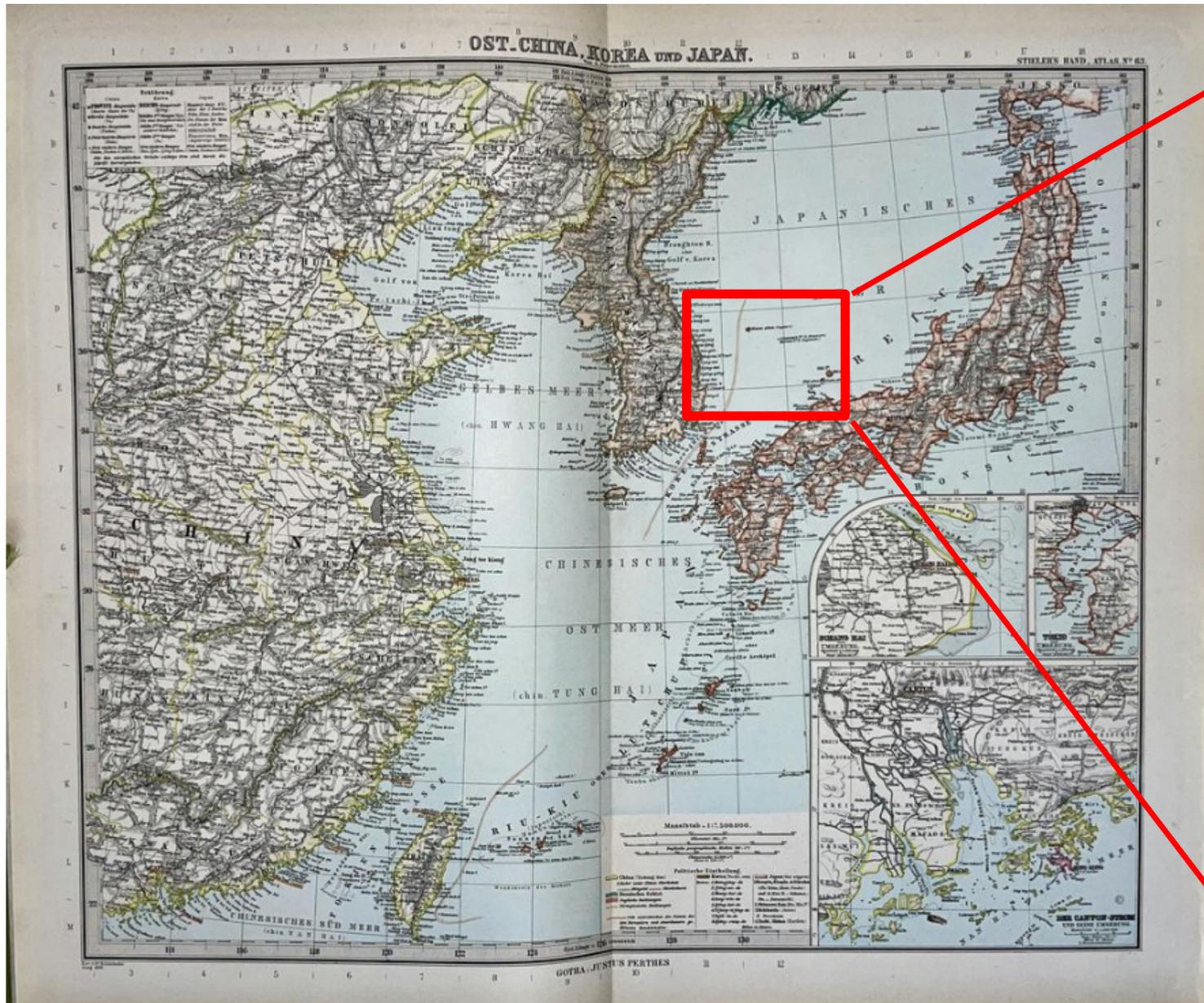
(地図例 1 : 江戸時代の日本の認識) 「新刻日本輿地路程全図」 (長久保赤水、1791年) (部分)

鬱陵島が「竹島」「磯竹島」、現在の竹島が「松島」



(地図例 2 : 19世紀後半の欧米の認識) Petermann, Von A(ugust).(Heinrich) / (Stieler, Adolf) OST. CHINA, KOREA UND JAPAN. Gotha, Justus Perthes, 1890 (ドイツの地理学者ペーターマンが手掛けた地図「中国東部、朝鮮及び日本地図」) (1890年)

鬱陵島はMatsu simaと表記。
(鬱陵島に西に国境線が引かれ日本領との認識



(地図例 3 : 鬱陵島 = 「松島」 の認識の日本への逆輸入) 海軍省水路局 『大日本海岸実測図』 のうち 「日本海岸全図」 (海図第85号) (1878年)

鬱陵島が「松島」

現在の竹島は「リアンコールト石」

